

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

奈良市法蓮町の狭岡神社の森の北側にノーガミサン、ノガミさんという小さな神が祀られてい。隣接する奈良教育大学附属中学校の南側の斜面に幅2mほどのコンクリートで三方を囲い、その中に石を積み、上に「野神」と彫り込んだ碑が建ててある。まわりにはイブキの樹が、前には小さなサカキが茂っている。

5月1日、朝7時から年に一度のお祭りがあるというので、小雨のなか向かった。7時前に法蓮田の3軒の人々4人が集まって、御神酒と供え物をし、オヒカリをあげて参拝した。もとは今の少し東側の斜面の松の大木が数本ある辺りにあったが、昭和32年（1957年）の付属中学移転工事の際に道路敷地となり現在地に移ったとい

う。私が初めてここに立ち寄ったのは昭和56年（1981）年6月だった。その頃は野神の石碑はなく、30センチ四方ほどのシバ（芝草）が何枚か積み重ねたままになつておらず、左右に御幣が1本ずつ立てられ、牛馬を描いた絵馬が2枚ずつ竹串につり下がっていた。偶然通りかかった佐保田の大西徳次郎さん（明治36年生まれ）から

いろいろお話を伺つた。ノーガミさんは、佐保田の農家7軒で祀り、家の並ぶ順でトーヤとなつて、ノーガミへ連れて参つたという。ノーガミさんは、米の粉の団子をアシの葉で包んだチマキを供え、終わるとこれを食べ、当屋が用意したワカメとジヤコの酢の物で御神酒を飲んで、ノーガミさんの掃除や田のシバの準備や牛馬の絵馬などを作った。祭りは元々6月1日セツク（節供）の日で、チマキを作り、ヨモギとショウブを束ねて、1年間を終えて、田に水を入れ、月15日ごろまでに麦刈りを始めた。田のシバは自分の田から切り取つてくるのだが、豊作を願つて数枚重ねるトーヤもいたとい



法蓮佐保田の野神祭り。碑の前には牛馬の焼き物が置かれている=筆者提供

## 麦刈り前の野神祭り

て、ノーガミさんの掃除や田のシバの準備や牛馬の絵馬などを作った。祭りは元々6月1日セツク（節供）の日で、チマキを作り、ヨモギとショウブを束ねて、1年間を終えて、田に水を入れ、月15日ごろまでに麦刈りを始めた。田のシバは自分の田から切り取つてくるのだが、豊作を願つて数枚重ねるトーヤもいたとい

めた。田のシバは自分の田から切り取つてくるのだが、豊作を願つて数枚重ねるトーヤもいたとい

う。麦を作らなくなり、忙しい6月を避けて昭和40年代中ごろから現在の5月1日になった。平成6年（1994）年には野神の石碑が建てられた。現在では農業は家庭菜園程度だという。（奈良民俗文化研究所代表）

II 次回は6月5日